

第4回 徳島駅周辺まちづくり計画策定検討会

議事概要

平成30年1月11日(木) 17時00分～
徳島市中央公民会 302会議室

1. 開会

【会長】

前は、まちづくりコンセプトなどについて意見交換を行った。本日は、そこからさらに深度化し、将来像・方針・ゾーニング等を提示いただく。本日も忌憚の無い意見をいただきたい。

2. 第3回の意見概要

【事務局】

・資料1の説明

3. 議事等

【事務局】

・資料2の説明
・参考資料の説明

(1) 徳島駅周辺のまちづくりの将来像及び方針

【会長】

何か意見があればお願いしたい。

【C委員】

「どんな基盤をつくるか」というところで、公共空間と民間事業者に分けられているが、この中間領域として、官民連携や公民連携に関する取組が行われている。ココフンなどは公共かもしれないが、もっと民間が提案していくような要素だと思われる。仕組みづくりのため、担い手をあらかじめ用意し、一緒に基盤を整備するような流れもあってもよい。

【B委員】

1つでも空き店舗があれば、全体のクオリティに影響を及ぼしてしまう。閉まった店舗に対して、「いつ・どういう理由で、空き店舗となったのか。」このことを誰も把握できていない。その状況を、街区ごと沿道ごとで把握し、期間限定で安く貸し出すような仕組みはできないか。

ココフンは、古墳がテーマで丸と凸凹で統一されているように思う。徳島でも大きなコンセプトやテーマを持って、緑化やLEDの活用に取り組んでもらいたい。

また、ベンチ等のしつらえについては、経年劣化する素材ではなく、経年変化を楽しめる素材を活用するなど、古びても味がでるような方向としてほしい。

【 会長 】

空き店舗対策は、重要なキーワードである。

【 H 委員 】

空間を活用していくにあたって、持続可能とするために、初期投資の段階の補助などもあるが、自分たちで取組を運営していけるような仕組みづくりを考える必要がある。

道路協力団体については、国が第 2 次の募集をかけているところである。認定団体は面的な道路活用が可能になるので、積極的に取り組んでもらいたい。

芸術、伝統、文化は徳島らしさの点で大事である。にぎわいの中心になりうるのではないか。

【 会長 】

地域の人が、心豊かに過ごせるまちづくりという部分は大切にしたい。

【 G 委員 】

子育てや商業、緑地といった点で、庁内や官の中での連携も大事である。関連部署の関わりがないと実現できないこともあるので、協議会などの設置も含めて考えて欲しい。

スキップやアミコの子育て支援施設は 16 時で終了となる。運営している課が違う関係もあるが、運営時間外の施設利用（目的外利用）ができない。他用途に時間限定で転用するなど、空き店舗の活用などと併せて、既存施設の活用方法についても考えてほしい。

【 会長 】

サービスは誰のために。と考えるつつ、官がやるべきところはしっかりやるべきである。

【 C 委員 】

インハウススーパーバイザーなど、デザインも含め、ある程度計画に専門性を持ったキーマンが市の中に必要である（副市長クラスなど）。推進体制をきちんと整理すべきである。

【 副会長 】

担い手の育成という言葉は、いろんな計画にでてくるが、育成できなかったという現状がある。インハウススーパーバイザーという意見もあったが、民間公募で、外部から登用するというやり方もある。実態として、簡単に育成は出来ない。

規制緩和がキーワードとなる。最初から計画されているものではなく、イレギュラーなものもいいものになることがある。非計画的なものとのバランスをきちんと協議していくべきで、これは研究が必要である。

空き店舗の情報把握などは、少し公共のやるべきことの範疇をこえているところもあるが、民間の問題意識を共有できる仕組みは大切である。その支援を行政が行う事は考えられる。

また、学生などの自由な滞在や活動を駅前空間で受け入れるなど、非計画的なものを許容する仕組みが必要である。

【 B 委員 】

民間であれば、計画通りに進む例は少ない。タイムスケジュールが必要である。外部環境がどう変わるかもわからない中で、作りながら考えていくような仕組みが必要である。

【 会長 】

高架のスケジュールもあるが、事務局としてタイムスケジュールをどう考えているか。

【 事務局 】

最終的な絵姿として 20 年後以降の議論をしているが、できるものからはやっていきたい。しかしながら、来年から早々に基盤整備をとるわけにもいかない。

【 会長 】

確実にできるようなものがないと民間は動かない。

【 B 委員 】

最低 3 年以内のことでないと投資もできない。

【 D 委員 】

インバウンドの話もあるので、DMO なども組み込んでいく必要があり、内部的なすり合わせはお願いしたい。

【 事務局 】

観光課などと連携し、事務レベルの調整は進めている。きちんとやっていきたい

(2) 土地利用計画（ゾーニング） ・ (3) にぎわい交流軸の形勢に向けた空間再編の方向

【 会長 】

(2) 及び(3)については、まとめて議論をしたい。

【 H 委員 】

B 案で問題点 2 点があげられているが、非常に大きな問題点である。今後高齢化進む中で、乗り継ぎ抵抗が増えると、公共交通利用者の減少につながる。

駅前広場を交通関連機能に特化させるのはもったいない。眉山方面への動線は明確にしておくべき。

【 C 委員 】

3つのプランに対して、目途をたてるのが大切だと思う。A・B 案の問題点は重要である。駅前ににぎわい空間をつくる観点では、C 案がよいが、交通広場がこれで確保できるかは懸念事項である。また、クレメントビルに対する配慮をどうしていくか。回遊を促すような空

間のデザインをしていく必要があるが、クレメントビルについては、1階部分を透過性の高いものに変更（リノベーション）すれば、空間づくりは可能と思われる。つなぎの空間をどう作れるかが問題であるが、C案は方向性としてはよい。クレメントビルの活用という意味でC案の方向性で頑張っていくべきである。

完成形に向けたスケジュールは20年では済まないと思うので、現時点では思い切った案を出しても構わないと思う。C案の場合、現況の立体駐車場は除去できるのではないか。自動運転などが出てくると駐車場機能事態が不要になるかもしれない。

体育館は、建替えの計画の中で、別の場所に移転する可能性もある。この場所の活用はあるかもしれない。

今の広場は思い切ってにぎわい空間とし、単に広い広場ということではなく、人が集まる空間にしてはどうか。

【 会長 】

案が3つあるが、検討会にてプランを決めるわけではないという認識でよいか。

【 事務 】

意見をいただいたうえで、市内部で方向性は決めていきたい。

【 会長 】

では忌憚りの無い意見をお願いしたい。

【 B 委員 】

歩行者・にぎわい空間を、とりあえず作ってみるという観点は面白い。当然、不満が出るのは覚悟の上、市民のポジティブの発想がでてくれば、車を外してもまちづくりができるという方向性になる。

にぎわい広場については、シンボルとしてのテーマ設定が必要である。

【 副会長 】

にぎわい空間をつくる以上、誰がどう企画をしていくかが重要であり、それがないと悲惨な駅になってしまう。にぎわい空間の価値を認めてもらうようなプログラムが必要であり、社会実験などで市民に体験してもらうような仕組みも必要ではないか。

城山公園の裏側に駅との結節性をもつ玄関を設けることに問題はないか。造園家などへのヒアリングも必要ではないか。とはいえ、軸をつくっていく必要もあり、社会実験などとセットで仕掛けを考える必要がある。

【 B 委員 】

土日限定などで、駅前広場を歩行者天国にして、イベント出演者を公募するような事も考えられる。若い人がのってくればよい。何をしても反対はでるが、反対派を納得させるにぎわいをつくればよい。

【 会長 】

20 年前 30 年前は社会実験も大変だったが、いまは容易に出来る時代になってきている。

【 B 委員 】

市の職員も社会実験を楽しみながらやってもらいたい。

【 会長 】

E 委員からの意見紹介をお願いしたい。

【 事務 】

E 委員の意見を紹介

- ・ 徳島駅には、路線バスや高速バスなどが乗り入れるが、ピーク時には込み合っている。現状としても規模は足りていない。それらのスペースの考慮をお願いしたい。

【 副会長 】

一番街のモール化が入っているが、どのように扱うのか。歩行者モール化の意味か。平成 22 年はスラロームのような道があったが、車を排除するという意味か。それとも対象車両限定とする意味か。

周辺の細街路も含めて歩行者空間にするようなビジョンもあってもよい。意思是より明確に示すべきである。

【 F 委員 】

昼間と夜間の賑わいとあるが、四季の賑わいも大切にしてほしい。NPO が四季の花を植えている。徳島の夏は踊りで盛り上がるが、それ以外の季節も楽しめる広場にしていってはどうか。

【 会長 】

テーマの一つとして参考にしてはどうかという意見である。

【 F 委員 】

中央公園側のにぎわい交流ゾーンは、現在も広場があるので、入り口付近の機能強化も必要である。

【 事務局 】

着色が触れないということではなく、中央公園自体が史跡になるので、内町小学校との境界まで史跡である。史跡保存が前提で、保存と活用を文化庁も掲げているので、その方針の中での検討は可能である。

【 会長 】

市民のための広場ということで、検討してもらいたい。

【 B 委員 】

駅前広場に川を通すなどもある。

【 会長 】

いろんなアイデアはあると思うので、是非楽しいことも考えながら検討してもらいたい。
C 案ベースにしつつ、体育館跡地の活用など含めて検討も含めて、検討を深めてもらい。

(4) 公共交通の利用促進策

【 会長 】

交通の結節点ということも含めて、公共交通の利用促進の話をしてもらいたい。

【 D 委員 】

今朝は雪でバスが運休となり、車も渋滞していた。バスの運休を知らずにバス停に並ぶ人もたくさんいた。バスナビもあるが、情報発信等、いますぐ出来ることはもっとあると思う。

【 C 委員 】

公共交通の利用率は、バス・鉄道で3%程度である。非常に少ない利用者だが、きちんと整備すれば、利用が増える伸びしろはある。当たり前にするべきことをできていない。

リアルタイムの情報とわかりやすさの2点は必ず必要だと思う。駅に対するみんなの関心を高める取組が必要である。

【 会長 】

情報提供のために JR や県が進めている検討もあるが、市も一緒になって、やってくる必要がある。

【 B 委員 】

自身は運転免許を持っていないが、そごうの駐車場の入庫待ち時間がもったいないと思うてしまう。待ち時間で歩いて往復できてしまう。

75 歳を過ぎたら自動車を運転することは危険であるとすれば、将来発生しうる交通弱者への対応を考えておくべきである。例えば、タクシーが駅前にたまっているなら、近場は半額にするなどできないか。

【 C 委員 】

観光客やインバウンドも同じ状況だと思う。まちの品格につながる。

【 会長 】

むずかしい課題も1つずつ解決していくことが重要である。課題は既に整理していただいていると思うが、利用者に対してやさしくわかりやすい方向で検討を行っていただきたい。

全体を通じた言い忘れなどあるか。

【 H 委員 】

20 年後 30 年後のにぎわいとして目指すべき姿は良いが、それでは遅いと感じた。どこから手をつけていくか、スケジュール感はしっかり持つべき。また、非計画的なものを受け入れていくのも大事な観点である。

【 副会長 】

方向性として C 案という話もあったが、これが将来であれば5年ごとに何ができるか、考えなければならない。壮大な社会実験の場が欲しいということもあるが、現状からどのようにシフトしていくのかを示せれば、リアリティができてくる。

【 F 委員 】

スケジュールも良いが、予算はどうか。予算計画がないと着手できない。

【 副会長 】

物理的整備以外は、予算の心配は不要だと思っている。そのため、積極的に実験をいっていく。30 年後の姿では予算付けも難しいが、5 年ごとであれば予算もつけやすい。

【 C 委員 】

自由度の高い、空間をつくるための最低限の改築工事くらいの費用があればいいと思う。

実際に、インフラ整備はきちんと予算とりが無いと動けない。完成形に向けて市としてやっていけることは何かを5年ごとに考えていく

【 B 委員 】

駅周辺まちづくり計画は、市民にとっても重要である。これから先どうなるのか、何をしてくれるのか。みんな関心を持っている。市長をリーダーに、各課6人くらいでプロモーションビデオをつくるなど、本気度を見せることも大事である。市長が変わっても職員は変わらないので、職員たちの本気度を見せてもらいたい。

【 会長 】

市の本気度を示す。気持ちを盛り上げていくのはソフト施策となる。年次計画は、いずれ必要になる。この会議でどこまでかという議論はあるが、検討いただきたい。

【 C 委員 】

アクションプランもあるが、ゾーニングもビジュアルにしてもらいたい。本気度につながる。鳥瞰のパースやCGなども必要ではないか。

【 会長 】

予定の時間となったために、意見交換を終わりたい。残りの検討会は1回であるが、計画素案について意見交換をしたい。

4. 閉会

【事務局】

次回は2月5日に開催を予定している。とりまとめ結果を提示したい。

-以上-